

痕があり、いずれも幼時中川五郎治に種痘を受けた痕跡であるという。

明治十五年当時七十歳、満では六十九歳であるから、この婦人は文化十三〜四年生まれと推定され、このことから、中川五郎治の最初の種痘実施年代が、従来主張されて来た文政七年より前に遡る可能性も否定出来なくなった。詳細については追って本誌に掲載する。

(弘前大学麻酔科)

## 世界最初の麻酔関連死を巡って

——トーマス・ハーバートの症例——

松木明知

昨年の本総会で筆者は、世界で最初のクロロフォルム麻酔死の事件ハンナ・グリーナー事件について発表した。今回はそれより約一年前に発表したエーテル麻酔による世界で最初の麻酔死とも言うべき症例について、実地に調査し、当時の医学雑誌、地方新聞はもちろんのこと、死亡診断書も取り寄せ極めて興味ある事実を知り得たので発表する。

患者は一八四七年二月十二日英国のオルチェスター・エセックス病院で膀胱結石の手術を受けたが術後五十二時間で死亡した。

この死亡を巡って論議が交されたが、筆者は手術が行われた病院を尋ねて当時の記録を調査し、患者トーマス・ハーバートの生地も尋ねた結果を報告する。詳細は追って本誌に掲載する予定である。

(弘前大学麻酔科)